

今、世界中で女性監督たちが活躍している。

過酷な映画製作の現場で彼女たちはどんな思いで映画を作っているのだろうか――。

この映画は東京国際女性映画祭で来日したゲスト監督を中心に3年間にわたる取材である。

20代から70代の世代も国も違う彼女たちからは女性監督として思うこと、結婚、子育て、社会と戦争など、

多様な話題が飛び出す。そこには女性監督たちの心意気、苦勞、叡智が語られ、

その深い洞察と創作活動を支えるものは何なのかが解き明かされる。

東京国際女性映画祭の20余年の貴重な映像とともに、12人の監督とプロデューサーの多彩な映画場面を楽しもう。



スミトラ・ピーリス (スリランカ)
Sumitra Peries

編集者として映画界に入り、1978年に第1作「Girls」を発表してスリランカ初の女性監督となった。「川のほとり」「長女」「マザー・アローン」「散歩の園」などを監督している。95年から99年までフランス大使、スペイン大使、ユニセフ大使を兼任した。夫は、レスター・ジェイムス・ピーリス監督。新作の「Yahaluwo」を編集集中。



ヘルマ・サンダース=ブラームス(ドイツ)
Helma Sanders-Brahms

1940年生まれ。ハノーバーの映像学校に学び、ケルンのTV局アナウンサーを経て、69年に短編ドキュメンタリーを製作。75年から長編劇映画を監督。「ドイツ・青ざめた母」「エミリーの未来」「ラピュタ」「林檎の木」「私の心は私だけのもの」「魂の色」など常にドイツの内面に鋭く迫って広く支持を得ている。念願の「クララ・シューマン物語」の撮影を無事に終えて、編集集中。



イム・スルレ (韓国)
Yim Soon-Rye

1960年生まれ。漢陽大学院演劇映画科を卒業後、パリ第8大学で映画を学ぶ。94年に製作した短編「Promenard in the Rain」が海外でも認められ、96年「Three Friends」で長編デビュー。「ワイキキ・ブラザース」「美しき存在-韓国映画をつくる人々」オムニバス「もし、あなたなら」の中の「彼女の重さ」。新作の「forever the moment」を編集集中。



マリルー・ディアス=アバヤ (フィリピン)
Marilu Diaz-Abaya

1955年生まれ。ロサンゼルスとロンドンのフィルムスクールで学んだ。80年「鎖」でデビュー以来、「ブルーータル」「カルナル」「貴方のためにたたかう」「ミラグロス」「海に抱かれて」「ホセ・リサル」「ムロアミ」「光、新たに」「昔と今」など、精力的に作品を発表しつづけるアジアを代表する監督。



キャサリン・ハードウィック (アメリカ)
Catherine Hardwicke

テキサス生まれ。建築科を卒業し、UCLAの映画学科に入学。プロダクションデザイナーとして、「マッド・シティ」「ニュートン・ボーイズ」「スリー・キングス」「パニラ・スカイ」「幸せの法則」などを手がけた後、03年に「サーティーン あの頃欲しかった愛のこと」で監督デビュー。「ロード・オブ・ドッグタウン」の後、最新作「マリア」を監督している。



イ・オニ (韓国)
E. Oni

1976年生まれ。子供のころから映画監督になることを夢見て、国立芸術大学フィルム&マルチメディア学部で学んだ。卒業後、短編の製作をするかわら、「子猫をお願い」などでスタッフをつとめた後、03年「アミノナカノ青空」でデビュー。最新作は、日本の小説を原作にした「肩ごしの恋人」。

女性監督回 カンパイ!

viva, Women Directors!

製作/東京国際女性映画祭実行委員会 共同製作/ジャクスタピクチャーズ 日本/2007年/カラー/87分/ドキュメンタリー 芸術文化振興基金助成事業

東京国際女性映画祭
<http://www.iwff.jp/>
ジャクスタピクチャーズ
<http://www.juxta-pictures.com>
ソルベーク
http://blog.goo.ne.jp/solveig_2006



ビョン・ヨンジュ (韓国)
Byun Young-joo

1966年生まれ。梨花女子大学卒業後、中央大学の大学院で映画を学ぶ。86年、女性だけで結成された映画製作・配給グループ(パリト)に参加。元慰安婦のドキュメンタリー3部作「ナスムの家」「ナスムの家II」「息づかい」を発表した。その後、劇映画に進み、「蜜愛」「僕らのバレエ教室」を監督している。



アグニエシュカ・ホランド (ポーランド)
Agnieszka Holland

1948年生まれ。長編デビュー作「田舎役者」で、80年カンヌ映画祭国際映画批評家連盟賞を受賞。「Angers Harvest」で米アカデミー賞外国語映画賞にノミネート。「僕を愛した二つの国/ヨーロッパ・ヨーロッパ」はニューヨーク映画批評家協会の外国語映画賞を受けた。「神父暗殺」「オリヴィエ オリヴィエ」「秘密の花園」「太陽と月に背いて」「敬愛なるベートーヴェン」を監督している。



コリーヌ・セロー (フランス)
Coline Serreau

1947年生まれ。76年に長編ドキュメンタリー、77年「彼女と彼たち」で劇映画を監督。「赤ちゃんに乾杯!」で、セザール賞最優秀作品賞と脚本賞を受け、米アカデミー外国語映画賞にノミネートされた。「ロミュアルドとジュリエット」「女と男の危機」「女はみんな生きている」「サン・ジャックへの道」など、強烈なフェミニズムをコメディ仕立てで描き、オペラの演出や小説の執筆なども手がけている。



クリスティン・ハキム (インドネシア)
Christine Hakim

1956年生まれ。73年「初恋」で女優デビューし、国民的大スターとなる。代表作に、「さすらい」「蚊帳の中」「チュウ・ニャ・ディン」がある。その後、プロデューサーとして活動を始め、「枕の上の葉」「囁く砂」をプロデュースし、出演した。アチエの大津波の被害を描いた「セラディ」の製作もしている。



イサベル・コイシェ (スペイン)
Isabel Coixet

1960年生まれ。大学では現代史を学ぶ。TVディレクター、脚本家として活躍の後、89年に、長編劇映画を初監督した。「あなたに言えなかったこと」の後、「死ぬまでにしたい10のこと」ではベルリン国際映画祭の最優秀脚本賞・監督賞など数々の受賞を果たした。05年「あなたになら言える秘密のこと」を発表。



せんぼんよしこ (日本)
Yoshiko Senbon

1928年生まれ。早稲田大学演劇科を卒業後、53年、日本テレビの開局とともに入社。多数の良質なドラマと多数の受賞で演出家としてTV界の歴史を築いてきた草分けの一人。映画・演劇界の俳優からの信頼は絶大で、その名は広くお茶の間に浸透している。05年「赤い鯨と白い蛇」で劇映画へ進出、初メガフォンをとった。

『女性監督にカンパイ!』の上映に関するお問い合わせは下記にお願いします。

■ 配給 ジャクスタピクチャーズ eiga@juxta-pictures.com

■ 配給協力 ソルベーク tel. 03 (3452) 6052 solveig@u01.gate01.com